

## 御薬園

御薬園(薬草園)は、池の周りを散策できる回遊式庭園で、モミ、スギ、マツ、四季折々の草花を年間通じて楽しむことが出来、景観豊かな日本の美を象徴しています。この静かな庭園は、会津の支配者の隠れ家として長い歴史を持ち、その当時の特徴や建物をそのまま保持しています。蘆名盛久(1416～1444)が最初の別邸を建てた跡地に、大名領主 保科正経(1647～1681)が市民の健康を守るために薬草を栽培し始めたことから、御薬園と名付けられました。

池と庭園は、18世紀後半に御茶屋御殿とともに増築されました。今日、訪問者は庭園の景色を楽しみながらお抹茶で一息つくこともできます。注目すべきもうひとつの建物は、池の中島に建てられた魅力的な六面体のパビリオンである洛寿亭です。これらの歴史的建造物はいずれも、戊辰戦争(1868～1869年)の被害を免れ、昔のままの姿で残りました。また、藩主 松平容保公や会津武士と戦う官軍は、御茶屋御殿を戦勝者の治療所として利用し、大きな被害を免れました。

1928年、松平節子(1909-1995)と昭和天皇の弟である秩父宮との婚約が成立し、会津若松は皇室との繋がりを形成しました。近くの東山温泉郷の旅館に別館を増築し、姫とその家族が訪れた際に宿泊されました。この別館は1973年に御薬園に移され、記念式典で秩父宮妃勢津子殿下により「重陽閣」と命名されました。